

5月5日は子供の日！ “キッズの日”は“キズケアの日”

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 形成外科 西関 修



“形成外科”は、体表面全体を対象とする外科の一領域です。診療内容は、創傷外科、再建外科、先天異常、腫瘍外科、美容外科など広範囲に及びます。責任臓器や診療対象となる部位が特定されず幅広いこともあり、専門領域の説明に苦慮することがありますが、「カタチとキズの専門科」と考えていただくとすっきりするかと思います。

さて、5月5日はケガをしやすいのがこども(キッズ)であることから、キッズとキズの連想から日本形成外科学会と日本創傷外科学会が「こどもの日」に因んで『“キッズの日”は“キズケアの日”』として2017年に日本記念日協会により制定された記念日です。

日本創傷外科学会は形成外科医が中心となり2008年に設立されたサブスペシャリティの学会であり、「キズ(創傷)とキズあとを治すプロフェッショナル」である創傷外科専門医・形成外科専門医が治療(ケア)することで、よりきれいに短時間に治すことが期待できることを広く知らせることを使命としています。

具体的には、昔は傷口を消毒して乾燥させて、瘡蓋の下で層を治癒させたり、軟膏とガーゼで治療することが一般的でしたが、現在は創傷被覆材を用いて適度な湿潤環境(うるおい)を保つことで、痛みを抑え、傷跡をきれいに、かつ早く治すことを勧めています。また、近年の高齢化社会への進行にともない、糖尿病の患者さんや透析患者さんの足などに生じる創傷(キズ)も増加してきました。慢性難治性潰瘍といわれるこれらの創傷(キズ)に対しても日本創傷外科学会では積極的に新しい治療に取り組んでいます。

学会ではより親しんでいただけるよう、学会の公式キャラクター「なおるん」、「きずな」*を先頭にして一般の皆様への情報発信を行っております。(図1) また、「キズ・キズあと ガイドブック」も学会ウェブで公開されています(添付QRコード)。ぜひ参考にしてください。

日本形成外科学会・
日本創傷外科学会認定
キズ・キズあとガイドブック



各種キズの治療法については、
日本創傷外科学会ホームページ
をご参照ください。



図1

*「なおるん」「きずな」は東京オリンピック:キャラクター制作を行ったイラストレーター・キャラクターデザイナー 谷口 亮氏の作品です